

思い出トークで若返り!?

高齢者施設で心理療法

山鹿市

山鹿市山鹿の小規模多機能ホーム「湯乃端」が12日夜、竹や和傘の明かりで彩られた。1964年の東京五輪の懐かしい映像も流れ、入所者らが当時の思い出を楽しく語り合った。

おしゃべりを用いた心理療法「回想法」の一環。高齢者が過去の記憶を取り戻し、脳の活性化を促す効果があるという。崇城大建築学科講師の内丸恵一さ

ん(57)が「山鹿灯籠浪漫・百華百彩」でも使った柔らかな大小の明かりで、落ち着いた雰囲気を出した。

会場には往年の洋楽のレコードが流れ、スクリーンにオーディリー・ヘプバーンの「ローマの休日」や市川崑監督の記録映画「東京オリンピック」が映し出された。お年寄りらは「当時、二十歳ぐらいだったわ」「バレーの東洋の魔女、懐かしか

と、青春時代を思い返していた。

明かりと回想法の組み合わせは初の試み。提案した内丸さんの妻で、大分県国東市図書館長を務めた紀子さん(62)は「みなさん表情が生き生きして、昔と今がつながったのでは」と目を細めていた。

(潮崎知博)

竹や和傘の明かりで彩られ、東京五輪の映像も流されたイベント会場＝山鹿市

